

# ひびきが丘小学校 学校だより

発行：校長 久富 繁雄  
平成 27 年 1 月 20 日(火)  
発行 No. 3

## ～ところが「障害」を生む

経済学者の松井彰彦氏の話です。

### ○ヴィンヤード島の生活

アメリカのマーサズ・ヴィンヤード島という島があります。農業と漁業を主な産業とするこの島では、遺伝性の聴覚障害が原因で、ろう者の比率が高い島でした。

この島の違いは、障害のある人に対して、社会が対応したことでした。ここでは、こども達の多くは、耳が聞こえていても手話を普通に扱い、英語と手話のバイリンガルとして育てていったのです。この島では、ふつうの会話においても手話を使って話をする。声がかき消される海の上でも、手話で船同士のやりとりができる生活でした。この島では、手話を理解しないことが大きなハンディキャップとなっていたのでした。

この事例にあるように、社会の関わり方次第で、障害のとらえ方が変わるということです。松井教授は、自分が慣れ親しんでいる社会を基準にして判断してしまう。私たちの心が「障害」を生み出している。心が変われば、進む道も違ってみえると述べています

### ○障害は自分の心で変わる

「障害とは自分の心で変わる」という言葉に深く考えさせられました。私たちは自分を基準に考えてしまいます。自分が持っている経験や基準が正しいものなのかを問い直すことが必要だと思います。

そして、それは家庭でも学校でも必要ではないでしょうか。学校では、同級生だけでなく、上級生や下級生と校舎で一緒に生活しながら成長していきます。子供たちは、得意なこと以外に苦手なことも持っています。苦手や困難かどうかを障害として理解するのは、自分の心なのです。

### ○学校で

今、身体的に障害がある人以外にも音に敏感な人や集団で行動するのが苦手な人達があります。生活や集団学習などで困難を抱える児

校章



童を対象に、適切な支援を行う「特別支援学級」を設置する学校が増えてきました。

本校でも、同じように、子供たちにあわせた指導や支援を行うために、特別支援学級で子供たちが一生懸命学んでいます。苦手なところをもちながら、学校のなかで、子供たちは学んでいっています。

今後も、子供たちが持っている得意なところと不得意なところをお互いが理解しあえる社会性・人間性を育むことを大切にしていきたいと思います。

## ○点字ブロックをご存知ですか

「視覚障がい者誘導用ブロック(点字ブロック)」をご存じでしょうか。方向や注意等を意味し、道路や床に設置されています。知らない人がブロックが設置してある上に物(道路では自転車)を置いてしまう場合もあります。理解を広めていくことが必要です。



駅のプラットフォームの設置例  
・線路側が格子状で注意・警告



エレベーターでの設置例  
線 上：エレベーターまでの進路  
格子状：エレベーター前の停止位置  
※エレベーター内の鏡：  
車いす利用者が降りる時に、後方を鏡で確認できるので、安心して降りることができる。

参考

・松井彰彦ほか『障害を問い直す』東洋経済新報社、2011年

